

ミライの
タネ

城南学園

将来に必要な力を 育てるために

「学力」と「人間力」の両輪を培う教育で
進路実現と豊かな人生を切り拓く“生きる力”の育成を目指す

未来の自分をイメージして作る「夢マップ」。



自己肯定感や目的意識を 育む『夢授業』を導入し 人間教育の強化を実現

同校が、進路実現に向けた教育システムのもう一本の柱に掲げているのが、「人間力の向上」です。その意図について、中学校教頭・北川真先生はこう語ります。「高校で伸びる生徒はどんな生徒か」を分析すると、基礎学力と知的好奇心という二つの要素が浮かび上がってきます。中学段階で成績が良くても、高校でそのままの学力を高める過程でもっとも重要だと言える「意欲」を維持するには、

徹底した反復学習と 「放課後学習会」で 基礎学力を確立

近年、難関国公立大学への現役合格者を輩出し、学習指導・進路指導両面における評価が高まっている同校。進路実現を目指した教育システムの柱の一つ、「学力の向上」を目的とした多彩な取り組みがなされています。なかでも特徴的なのが、年間約250日という豊富な授業日数を活かし、中学



3年間を通じて実践している反復学習です。通常の授業↓単元ごとの授業内容を復習↓定期考査前に試験範囲の復習、という独自の学習サイクルにより、基礎学力の定着を図っていくのです。加えて、国数・英の3教科における習熟度別授

業や個別指導など、学力の高い生徒への取り組みも充実しています。同校の伝統である一人ひとりに目が行き届く環境のもと、ていねいできめ細かな指導が実践されていることがわかります。

さらに中学では、今年度から、月々金曜日に指名制で中1〜中3合同の「放課後学習会」をスタートしました。これは、宿題の提出状況や授業中に行う確認テストの結果をふまえ、各教科の教員が、学習習慣や基礎学力の定着に向けてさらなるフォローが必要だと判断した生徒が参加するもの



「放課後学習会」は、各自が未提出の宿題や確認テストに再チャレンジするなどの、自学自習の場です。高校に比べて時間的な余裕があり、物事を素直に受け入れる発達段階にある中学時代にこそ有効な取り組みだと考えています。この「放課後学習会」を機に学習への姿勢が変化する生徒も見られ、効果を実感しています。将来的には、今年度から高校に設置された教育系大学・学部を目指す「教育特進コース」の生徒が、リトルティーチャーとして「放課後学習会」に参加し、中学生のサポートをさせたいと考えています」と話すのは、発案者の中学校主任・永井敏元先生です。

学びが将来にどのようなつながるかという意識を持つことが大切だと、若者の離職率の上昇といった問題は、AO入試などを利用した真正面から受験に挑まなかったために、本来なら身につけているはずの「力」が備わっていない学生が増えていることに一因があるようです。つまり私たちの役割は、単に学力を高めることだけでなく、志望大学に合格させることだけでもないのです。今後も、真の「生きる力」を身につけるうえで不可欠な、学力と人間力、両方の養成に力を入れたいと考えています」

特に中学では昨年度から、人間力向上を目的とした新たなカリキュラムを精力的に導入しています。その一つが、外部講師を招いて行う「特別講座」です。今年度は、人権教育、文学、スポーツの3部門の講座を開催し、交通死被害者遺族、芥川賞受賞作家、フットサル日本代表選手などの体験談を通して、問題意識の向上や興味範囲の拡充を図ります。

また現在、進路学習の体系化も推し進めているところです。2014年度のスタートを目指して準備に取り組んでいるのが、中1の「夢授業」。自分の特徴を改

めて認識することで自分自身を見つめ、自己肯定感を育んだ後、5年後、10年後にどんな自分になっていたいか、どんなことを行いたいかを考え、その夢に関連する雑誌の写真的切り抜きなどを自由に貼って目に見える形にする「夢マップ」作りに取り組み授業です。プログラム作成に携わる永井先生は、その意気込みを語ってくださいました。

「脳科学の観点から、明確な目標設定とその実現のためには、漠然と「なりたい」と思うだけではなく、具体的なイメージを持つことが大切だとされています。さらに夢マップに、たとえば「〇〇に留学しました」というふうに過去形で書き込み、常に目に触れる場所に貼ることによって、自然と実現に向けてどうすればよいかを考えるようになります。この授業に関する研修でも夢マップを作成しましたが、とても楽しかったですね。生徒の可能性を広げ、花開ききっかけを作ればと思います」

中2では従来から、グループごとの一つの職種について調べて発表する「職業調べ」を実施しています。さらに中3では昨年度から、新たな行事として大手カメラ



事務機器製造メーカーの見学を実施し、生徒からも好評だったため、今後も「企業見学」として継続する予定です。加えて、地元商店街での「職業体験」を、今年度から始動します。「中学3年間で進路学習の流れを確立できれば、それを基盤に、より中身の濃いものへと進化させることが可能です。視野と可能性を広げ、学習における意欲や目的意識を育めるよう、さまざまな取り組みを通じて働きかけていきたいと考えています」(北川先生)